

令和3年度 第1回胎内市男女共同参画推進委員会 議事録

1. 開催日時 令和3年7月26日(月) 午後1時30分～3時
2. 会場 胎内市役所301会議室
3. 出席委員 宮腰委員長、浮須副委員長、河内委員、新村委員、中島委員(アドバイザー兼任)、中川委員、布川委員
4. 欠席委員 大島委員、南波委員、渡邊委員
4. 会議次第 別紙のとおり
5. 会議経過 別紙のとおり

委員長 それでは皆様のお手元に『事業進行管理シート』を事前に届けられていると思います。事務局の方から資料について説明をお願いしたいと思います。

事務局 (胎内市男女共同参画推進委員会、事業進行管理シートについて説明)

委員長 去年もらった実施計画、これを見ると64項目ある。それから63項目で1件減っているんだけど、どの事業が減ったんでしょうか。

事務局 事業がかぶっていた箇所について、一つにまとめさせてもらいました。

委員長 上から2番目の枠、番号『1』・『2』とかがあって、『指標』があって『基準』『目標』があるんですけど、この『番号』とは何ですか？

事務局 これは『第3次プラン』の冊子の『指標の番号』と照らし合わせていただくものになっております。例えば1ページの指標番号1、2が計画の冊子で言う15ページの『施策の方向1』という枠組みで、この中に『指標1』、『2』という事で掲載しています。

次に早速『事業進行管理シート』の中身について説明していきます。

(事業進行管理シートの事業について一部抜粋して説明)

その他ここにあげた事業はまだたくさんあるんですけども、時間の都合上、割愛させて頂きたいと思います。皆様の方から説明した事業以外についてもご意見・ご感想などがありましたらお願いします。

委員長 ありがとうございました。それでは、63全事業に拡げまして、質問などということでもよろしいでしょうか。それでは、皆さんのほうから何かありましたらお願いします。

委員 『検証』の所で、赤字で『男女共同参画の視点』で事業に実施する事だというのが加わってますよね。ところが抜けている所もあるんですけど、これは意図して抜けているのかただ単に抜けただけなのか。

事務局 こちらは意図したものではないので、修正させてもらいます。

委員長 その『男女共同参画の視点』というものがどういう視点でというものなのか、ちょっと曖昧な感じがして、それぞれの課で思ってる、それぞれの事業で思っている『男女共同参画の視点』でって言う捉えでしょうか。

事務局 様々な事業がある中で、一概に「こういう事です」と、あえて触れない方が逆に様々な事業の担当者の方から色々な意見、内容が挙がってくるかなと思ひまして、あえて指定せずに『男女共同参画の視点』でっていう事でこのようにしました。

委員 それぞれが捉えているそれぞれの視点の『男女共同参画の視点』で検証したということでしょうか。その事業によっては、別に『男女共同参画の視点』でって言わなくてもこの事業は出来た、出来ないというのがあるかなというのが幾つかあるので、ちょっと疑問に思いました。

委員長 今、ある意味問題提起がありました。そういった事については今回、この場で掘り下げて討論したほうがいいのか、一旦ご意見を皆さんから伺うということがいいのか。

- 事務局 そうですね、一旦皆さんからご意見を頂いて、ご意見を頂いた物についてはこちらでまとめて各担当者の方々に共有したいと考えています。
- 事務局 わかりました。そういうことですので、それぞれまたご意見がありましたらお願いいたします。
- 事務局 すみません、私が言うのも何なんですけども、『男女共同参画の視点』で事業を実施する事が『できた』、『できなかった』、『あまりできなかった』、これでは非常にアバウト過ぎると思いますので、こちら辺は施策に応じた「男女共同参画の視点」というのは絶対あるはずですので、それは事業課で検討を促すとかしないと具体的にそういうのに意識をして『男女共同参画』を意識して事業を進めているかどうかという所がピンボケしちゃいますので、こちらへんはちょっとうちの方から掘り下げて、担当課の方に投げさせてもらいたいと思うんです。これではちょっと余りにも、どうなのと言う所があるんで。
- 委員長 そうですね、せっかく事務局からそういったお話がありましたので、その点について何か他に「こういった事をやった方がいいのではないか」というのがありましたら、ここで一旦うかがいたいと思います。
- 事務局 その他に先ほどうちの手前味噌ですけども総務課の部分の実施計画について説明しましたけども、他課も様々な『男女共同参画に関する施策事業』がある訳ですので、そこら辺ですね皆様方から忌憚のないご意見を頂きたいと思えますし、各ページのシートの最後に『委員会の評価』という部分があります。これについて説明いたします。
- 事務局 こちらで考えておりましたのは、もちろん全ての事業について一つ一つ見ていくというものは、この委員会で行うのは時間の関係もあるので、難しいかなと思っております。焦点を当てて「この事業は一、この事業は一」と言う形で、今ご意見頂いたものに関しましてはまとめた物をお作りしたいと考えております。ただこの会の中で焦点を当てられなかった事業に関しましてですけども、会議の後でメール等でやり取りさせて頂く事も一つかなと考えております。ひとまず本日いただいたご意見に関してはまとめさせてもらって、各担当課に共有させてもらいたいと思います。一つ一つの事業の評価については、検討している所であります。
- 委員長 この委員会で63事業のうち、例えば今、委員がおっしゃったような視点で見ると、もう一度検証する必要があるのではないかと、みたいなものをとりあえず今挙げていただくということによろしいでしょうか。
- 事務局 そうですね。一つ一つの事業に「これは、これは」というものもありますけども、先程あの委員がおっしゃった様に全体に通して、具体的にこんなのをどうしたらいいとかっていうのが中にあると思いますので、そういったものに関しましても全部一つ一つこちらで同じ様な形で共通する部分については、事業を拾ってまとめた物を各課へ共有させてもらいたいなどは思っているんですけども。

委員長 そうしますと今あがっていた視点というのは、その事業が男女共同参画の視点で行われていないものもあるのではないかと言う事ですので、そこで言ったら、どの事業をとっているのを今それぞれの委員さんからピックアップして頂いて、それを担当したそれぞれの課で検証していただくということによろしいですか？

事務局 お願いします。

委員 今の話と関連していると思うんですけど、例えば1ページの所なんですけど、『検証』って凄く大事だと思うんですね。この事業ももしかすると、見方によっては『男女共同参画』になるかもしれないんですけど、どういう点が『男女共同参画の視点』だったのかっていうのがちょっと分かりにくいと思うんですね。だから、アンケートをする時に工夫すればいいと思うんですよ。要は「概ね理解できたかどうか」などでは、本当に『男女共同参画の視点』で皆さんが理解したのかどうかっていうのは分からないので、アンケートを工夫する、もちろん「概ね理解できたかどうか」と言う事も聞いていいと思うんですけども、その各課の方で『男女共同参画の視点』からはこの事業ってどういう位置づけなのかっていうような共通認識が必要だと思うんですけど、それに基づいてアンケート項目を1つか2つ入れておけば何%の人が『男女共同参画の視点』で理解が進んだかというのを把握できるのかなと思います。全部無くしてしまわなくてもいいのかなっていう。その時に「どうしてもその項目が立たない」、「アンケート項目が思い浮かばない」という事業は『男女共同参画の視点』っていうのが考え付かないので、検討してやめるだとか、ここから削除したりするといいのかな、ってのが思いながらお聞きしていました。

委員長 事業の形態として一般市民の参加者型の事業に対しては「そのアンケートを工夫する」と言う事を一つに提案させて頂くということが1つ。それから、『男女共同参画の視点』が抜けた事業だったのではないかと言うことがありますので、それがどの事業なのかって辺りを一度今ここで出来る範囲で整理する事で移りたいと思います。

委員 7ページの事業は、これが何で男女共同参画なのかが読めない。

委員 これは、学校教育課の中で検証して、できたっという評価をしたとことによろしいでしょうか。そこに総務課さんの評価が入るとするのは、今回のものにはないということによろしいでしょうか。

委員 どこが男女共同参画に当てはまるのかっていうのが全然読めない。

事務局 そうですね、私担当としての意見ではあるのですが、最近言われている「理系女子」ですとか、「この職業は男性になる」とか「女性になる」とかって言うのが今まではあったと思うんですけども、それを無くして皆さんそれぞれがやりたいものに向かってなる為に職業について学んでいくという様な意味合いで『キャリア教育推進』という形で私は理解していたのですね。この『中学1年生の職ナビゲーション』についても「男性だからこの仕事」とか、「女性だから

この仕事」って言うのを関係なく、様々な職業の方々の紹介ですとか、説明、それから体験をして頂くという事で、その職業に対するお子さんたちがこれから進路を決めていく上で思っていた固定概念だとか、「男性でもこれができるんだ」とか、そういう様な気付きを与える為の一つの事業なのかなという風には私の中では理解していました。

委員 そういう理解であれば、よく理解できますけども、この文章は誰に読ませたいのかっていうのがえらく欠けているように思うんですね。

事務局 ありがとうございます。

事務局 男女共同参画の視点からして、この「職ナビ」や教育っていうのがわからないから、もうちょっと掘り下げて、各課に投げなきゃだめだと。

委員 私これを見て各課によっては、事業をやったっていうのを「出来た」と捉えている人もいるし、ちゃんと「視点で出来た」と丸をした人もいると思うんですけど、この『検証』の部分の書き方を『事業をする事が出来た』、ただしそれは『視点を重視した』とか、あと『何を視点としてそれをしたか』とか、『次はどのような事が出来るか』っていうのを書くと忙しいじゃないですか。色んな事業をやっている。それであれば質問形式を増やしてあげればいいのかないかなと思います。なので次回こういうものがあれば、検証する質問事項を工夫してもいいのかなと思います。

委員長 ありがとうございます。他に該当しないのではないかという事業についてどうですか？

委員 33 ページ、『サービス案内』の内容によっては男女共同の視点に立っているかどうかっていうのが疑問かなっていう風に思います。あと 36 ページ、『事業内容』と『データの内容』が合わないんじゃないかという風に思います。それから 44 ページ、男女共同参画の視点で事業を実施することができたとあるけれど、これをみると、これでできたといえるの？という、なんか本当に事業を実施したので出来たっていうのが結構あると思うんですよ。それから「コロナ禍だから中止した」という辺りが、「コロナ禍でそのものは出来なかったかもしれないけれども、もう少し『男女共同参画』という意味でその課で出来るのがあったんじゃないかなという感想を持ちました。なんでも「コロナコロナ」でもう中止、それでしなかったで済ませてしまっている感じがちょっと感想として。

委員 このシートってのはどなたからかかれるんですか？各課の方から？

事務局 各課の事業を担当する方々です。周知する際に課長会議を通じ、各課の課長から担当の方に見て頂いて、記入してもらったものをこちらで集約してまとめたいという形です。

委員 集約される前の課の事業に『男女共同参画の視点』からも書いている状態で？
事務局 予め『男女共同参画の視点で』っていうのが入った状態で『出来た』とか『出来なかった』だけ選択できる様にデータを加工しています。

事務局 この部分が超アバウト過ぎるから、もう少し具体的に掘り下げないとならなかつたんじゃない。単に事業をやったから「出来た」にダイアログボックスをクリックしてポンとやって、横の『男女共同参画の視点』なんて全く意識しないで記入したような課などが見受けられるわね。

委員長 このフォーマットで、それぞれの課が実施した事業を、本来の目的に沿って自己評価をするための指針がもうちょっと具体的にあつたほうがいいということでしょうかね。

事務局 掘り下げて、各課に投げかけます。疑問の部分のシートがいっぱい、私が見ただけでもあるんで、委員の皆様からもそう言うご指摘があつた訳です。それも含めて各課にお伝えしていく上で、『検証』の部分『事業課』について、もうちょっと視点を『男女共同参画』のどういう視点に基づいて実施が出来たの、出来なかつたの。いや、正直に言って「意識していませんでした」でもいい訳ですよ。そういう回答があつても然りだと思つていますので。じゃあ、それに意識が「視点がなかつた」、「意識してませんでした」であれば、今後どうしていくのみたいな事を各課に投げかけるという事で整理させて頂きたいと思つています。

委員長 その他になにかありますでしょうか。

事務局 男女別の数字があつてもいいのかなと思つています。各イベントの参加者数が、男の人がどれくらい出ているかということは結構重要なのかなという気がして。知りたいなとも思うんですが。このワーク・ライフ・バランスとか。それってどれくらいなんですかね？

委員 以前アンケートを取つたときには、『男女別』、『年齢別』っていう所で、年齢的に「この年齢です」と言う意識とかを照らして、今回の事業に参加された方の詳細があつてもいいかなと私は思つています。

委員 あと母数が、っていうところですかね。

事務局 これを全部評価しようと思つてバツツと読みかけたんです。途中で止めちゃつたのね、まあいいと。何でかって言うと、何でこんな事を書いているかなとわけわかんなくなつちゃつて。まずですね、『出来た』、『概ね出来た』、『あまり出来なかつた』、『出来なかつた』。この評点で行くと何点になるのかなと思つて、それを勝手に付けたんですよ。『出来た』の4.0、以下3,2,1っていう風に。各項目ごとにつけて、アベレージをつくつたんですね。全体でやると3.0、総務課3.0、こども支援課3.1と。大体3点台なんです。一番悪いのは商工観光課2.3、だから事業の中身にはよると思うんですけども、それだけではなく、課の意識がここにのつかつてるんじゃないかというのが私の分析なんです。そういう意味で各課でウォッチはしておつしゃるんだけど、誰がどんな風にウォッチしているのかね、もっと言うとコロナ、コロナ、コロナっていうのが十何件でてくるんですね。本当にできなかつたのは、コロナだけの世界なのかつて。で、事務局の方で書いてくれたのは例えばね、1ページ一番下の所に『新型

コロナウィルスの状況を踏まえながらこのまま継続して取り組む』。コロナ禍の中でも総務課ではちゃんとやってくれてるわけよ。他の十何件の人はコロナだけを理由にして、やらなかった。それでいいのかって。たとえば集まりをかけようと企画があったとして、別に集まらなくて他の方法も構えられるだろうと。そんな風に思って、途中で止めちゃったけど。もっと言うところの計画ってというのはね、去年の7月に出てるわけ。そういう頃にはコロナなんていうのは大っぴらにあったわけですよ。そういうのがコロナで出来なかったっていうのはその時点でわかっていたことだから、今更何を書くんだねって話なんですよ。この評価推察は最近書かれたんですか。

事務局
委員

そうですね。

そうだとすると、この評価シートっていうのは、自分たちが今年度に向けて何が何をやらなければいけないかというのを反省する為の資料ですよ。この資料に対して私はね、今更何も言う事もないんだから、これの反省事項に基づいてちゃんと仕上げてくださいという、それしか意見はないですね。担当がよく理解してもらって書いてもらえれば。そういう事を思いながら、今日参加させてもらいました。

事務局

委員がおっしゃる通り、ここの部分ね「コロナ禍だから出来なかった」で結果報告をしても何の意味もないと。その後のステップが大事だよと、次年度に。じゃこれからもコロナウィルスについて、全く無くなるって事は無い訳ですので、コロナとどう付き合っって『男女共同参画』をどう進めていくか、今まで通りではいけないから、今後どう変えていって推進していくかという事について書いて頂かないと評価の仕様はございませんと、そういう事なんですよね。そこら辺、ちょっと担当課にさっきと同じ様に書きぶりが非常にアバウトだし甘いので、再度さっきの提案も含めてですね、投げますと。

委員

一応書いて『出来た』だけって言われたってね、そこを読んで評価するっていうのは無理よね。「絵を描け」とかは言いませんけども、『出来た』っていうバックグラウンドがあるはずですよ。そこからのアクセントをインプットしてもらえれば。総務課の方は確かに、業務としてやっているだろうから、良く書けているんですよ。だから総務課のやつは読んでいって、何ページかしたら読む気がなくなった。

委員長

表自体は色々な意味で見やすくはなっていると思うんですけど、あとは実態を掘り下げて、効果がでるような工夫をしていただきたいですし、あと課によって温度差があるのを、総務課主導で払拭していただきたいと思います。

事務局

ちょっと質問なんですけど、各課でやった後に「あ、これは『男女共同参画』に入るかな」みたいな感じで選んで出されているのか、計画当初から男女共同を意識した上で、計画を立ててやられているのか。

事務局

一番最初にこの計画、第3次の冊子の方の計画を作った際にですね、各課にこういう視点でどういう事業をするか、取り組んでもらう内容を揉んでもらい

まして、そこからどの事業を挙げるかっていうのをこちらから各担当課に振って挙げてもらっています。

委員 事務局 委員 それはじゃあ、事業をやる前についてということですかね。

委員 事務局 そうですね。

委員 事務局 それは凄く重要なと思うんですけど、だから最初計画を立てる時に、きちんと視点を書き出してもらって、それに沿ったアンケートをやる、まあそんなにたくさんはできないと思うんですけど、評価をするための項目を入れると書きやすくなるのかなと思うんですけども。なんか、明らかにウーンっていう感じのものが計画の段階から何個もあったと思うから、そんなにいっぱい出さなくてもいいんじゃないかなと。例えば「保育園、こども園において」っていうのとかですよ。これ、男女の地位が平等になっているという子どもたちを増やすっていうことだと思うんですけども、これ『指標』になっていながら、やっていることは、ちょっと何か、子供達の意識の変容ではなく…まあ難しいと思うんですけどそういうのって。まだちっちゃい子供には。ちょっとなんかポワーンとした感じになっていて、そんなにたくさん無理やり出さなくてもいいんじゃないかなと思ったりするんですけどね。何かたくさん出すことが求められているかなとか、数を競われているのかなみたいな何かこれを見た時に、凄いいっぱいあったので、思ったんですけど。最初の『選択』の所で、セクションをかけるのは、できなかったんでしょうかね。計画を挙げるときに。すぐわれないものがたくさんあるなと思ってしまったり、そして何でもかんでも入れる必要があるのかなと思ったり、でももしかするとこっちで気づかない『男女共同参画』の視点があるものもあるのかなと思ったりしながら読んでました。

委員 委員長 一番最初にあげている、ありとあらゆる項目を網羅するために多少無理があって、それぞれの課に投げかけた結果、事業が『男女共同参画』と余りすぐわれない様な業務内容の所にちょっと無理があって、結局今回の様な事例になってしまったという辺りはどのようなものでしょうかね。

事務局 そうですね、本当一番最初ゼロの時に、こういう計画をこちらの方で事務局案として作って、で、その中で各課にこういう視点を持って取り組んで頂いて、こういった視点で取り組んでいる事業を上げて下さいという事であげてもらっているのがこの事業ですね。

委員 委員 挙げてもらったことに対しての一つのスクリーミングというのはなかったんでしょうかね。

事務局 そうですね、中にはやり取りをさせてもらった物の中にはあるんですけども、やっぱり全ての事業をそれぞれ隈なくチェックできたかって言われるとちょっと、出来てなかった部分もあったかと思います。

委員 委員長 それはもちろん業務の問題、業務量の問題とか色々な問題があると思うんですけども、そこは考え方として、一体そこら辺をどうしたらいいかっていう事を今、委員会でも提案させて頂いてもいいのかなとは思っています。

委員 「現実的に出来る事を」という風な視点で見てもいいのかなど。たぶん総務課さんの方がそこら辺は実態として現実的に『出来る』、『出来ない』辺りっていうのはあると思うんで。どうなんでしょうね。そこもさっきの『男女共同参画の視点』が入っているか入っていないかっていう辺りもそこで、総務課のほうで、「これはちょっと…」みたいな形で一旦下げてもらって、で、中々今年は無理だってなったらそれはそれで良しとしてもいいんじゃないかと言う意見もあるんですけど、あがってきた事業全部にそういう、総務課さんの方でやるのが現実的に可能な作業なのかっていう問題もあるかと思いますので。この辺どうでしょうか？

事務局 担当としてやる中でも全ての事業を隈なくやり取りするのは難しい部分もありますので、『庁内検討委員会』という事で、各課の方から1名選出してもらって、庁内で皆さんに集まってもらって、ここで話し合われた内容などについて私の方から皆さんに共有させてもらって、その方々から各課に情報提供してもらいたいなという事で考えています。それでもやっぱり全部が良くなるかっていうとそうではないと思うんですけども、今の現状に比べればまだ、それぞれ「この課は誰々さんが担当」という事で、その方に担当してもらって「ここでの内容を皆さんに共有してもらえればいいかな」とは言う風に思っています。

委員 いいですか。今の議論の中身は、担当と担当がやり取りしているとおっしゃったよね。ここの長、いわゆる係長や課長などが、これは知ってるわけですよ、当然。課長さんが見て、「これ変だな」と思わない課長がいらっしゃる。真面目にそうなんです。やはり担当を教育する前に、課長を教育した方が良いのか。ちょっと厳しい話ですけどね。少なくとも目には通していらっしゃる訳ですよ。

事務局 そうですね。

委員 市民に公表する資料だからね。

事務局 今の話を含め、職員の庁内の検討委員会でこれを揉んで、こう挙がってきた物なんで、それについて委員はその上の課長なり係長が目を通して、これを総務課に出しているはずだけど、「本当なの？」、「どうなの？」と再教育が必要な課長係長がいるんじゃないのかと、まあそういう趣旨だと思うんですけども。やはり『男女共同参画』の先程言った視点でという超アバウトな事じゃなくて、もうちょっと掘り下げてですね、係長課長に掘り下げた内容で、視点も含めて検討して頂く、「コロナで出来なかった」というのは無く、「じゃあ今後もコロナがwithコロナに向かうためには、男女共同参画の施策・事業を推進するために今後どうしていくの？」、「行くべきなの？」と言う所までですね、踏み込んで、課長・係長にお伝えしたいと思いますので、総務課長の名前で各課長に出します。そうじゃないとこれ進みません。

委員長 お力添えをいただきましたので、ぜひよろしくお願いいたします。

事務局 改めて、庁内委員さんとかにも、もう一度研修をして頂いて、今回『男女共

同参画』っていう視点をどの様にもったら良いかっていう辺りをもう一度考えていただける様な機会をもう一度もちたいかと。その上で、もう一度した方がみんな同じテーブルについてこう、少しでも空けて研修をしてから検討したいと思います。

委員長 では、よろしくお願いいたします。

委員長 そうしますと、委員会の『評価』の所なんですけども、今回は委員会の評価については、私達委員からここへの評価をする、しない辺りがどの様にお考えいただいたらよろしいでしょうか。

事務局 頂いたご意見について内容をまとめてここに転記させてもらおうかとは思っていましたが、さすがに全事業についてそれぞれ皆さんに細かくお聞きしていくことまでは考えてはいなかったんですけども。

委員長 そうしますと、一旦、色々な提案をさせて頂きましたけれども、それはそれとして、今回の63事業についてそれぞれの委員がこの事業についての評価という形で提出するっていう事をやるという事でしょうか？

事務局 委員長がおっしゃる様に、この『進行管理シート』自体がまだ皆さんのご意見を踏まえると、全く個々の『報告シート』を評価する様な内容になっていないというのがまずある訳ですよ。そうすると、今日出た意見は、全体の委員の皆様『評価シート』63事業に対する『全体の評価の結果としてのご意見』という風に、私どもの方で承ります。それで個々の63事業について今日頂いた意見を踏まえて、新たにまた示し出来る時期が来て、各課に色々やり取りなり研修なり庁内検討委員会なりさせて頂いた中で、修正なり整理が出来たら改めてお出しして、63事業、今日みたいな一堂に返して対面方式で評価するっていうのは時間も掛かりますし、その時はメールなりのやり取りでね、「個別に63事業を全部意見下さい」でなくてもいいです。絞り込みで「私はこの事業と事業とこの事業に関しては物を申します、意見あります」と言う形でもいいと思いますので、そういう形で取りまとめさせて頂いて進めていければなど。「この事業1つ1つ評価して下さい」では今言った意見からして評価しようがないと言われるのが目に見えていますので。そんな風に進めさせていただきます。今日の意見は63事業全体の評価に対する意見という事でまとめさせてもらいたいと思いますので。

委員長 ありがとうございます。では、その他全体に関わるところで、皆さんのほうからご意見があるようでしたらおうかがいします。まだ、時間があるようですので。

委員 いいですか、事務局がおっしゃった通りね、結論的にはその『評価』に値しないのですかね？少なくとも容赦する訳じゃないですけども、「総務課の物は総務課の評価の通りに私達が付けていいのですよね？」「他の所は評価できないんだよね？」という様な質問なんですけど。そのバックグラウンドがあって、これは書き直して来るんですか、どうなんですか？

事務局 書き直します。

委員 このものに対して、思った事をメールなり何なりで返してって結論？

事務局 いや、まず各課に修正させます。今日の委員の皆さまの意見は「評価シート全体の意見としてありました」、「じゃあそれを各課にこういう意見が出たよ」、「この『評価シート』には評価のしようがないよ」と、もうちょっとうちの方でもその記載方法なり記入例の事をあげてですね、掘り下げて『男女共同参画の視点』っていうのを具体的に「あなた方のこの事業についてはどういう視点を持って取り組むの?」、「コロナ禍で出来なかった」であれば、じゃあ「withコロナの時代で今後どうしていくの」という所まで掘り下げて、書いて頂いた『修正シート』を皆様にお示しして、63事業全部じゃなくてもこの『評価シート』でこのピンポイントでいいので、幾つかの事業についてご意見を頂くという事で集約させてもらいたいと。

委員 そうしますとね、複雑な言い方をしますけども、令和3年度の計画は何かあるのですかね。

事務局 そうですね、令和3年度についても同じ様に別な「追加でこの事業をします」とか、そういったのがあればこう挙げてもらう様各課には周知しました。

事務局 何を言いたいかというと、この計画っていうのは去年の7月にもらっているわけですよ。ということは、この節目でいうと…

事務局 まだ評価は検証できないけれども、上段の部分まで書いた『令和3年度』バージョンはいつ出るのっていう話でしょうか。

委員 これを修正しながら、これから出るもの…どういう位置づけなんでしょうか。

事務局 それも当然、『令和3年度』が無い訳じゃないんで、実施計画が。当然お示ししていかないといけない物ですので、令和2年度は過去のもの。「2年度の検証の結果として3年度はこういう事業で実施計画を行います」、「それも改めて、事後評価も致します」と言う流れでこう進んで行かないと、ローリングして行かないとおかしい訳ですので。それもお示しできる様に次回までにはいたしますので。

委員 大変ですね、今の話。

委員 14ページ見て頂くと、『女性委員の推進』についてなのですが、『概ね出来た』になっているんですが、目標35%で、令和2年度30.6%を基準っていうか、ちょっと全体的に評価を厳しくした方が良いんじゃないかなと思いました。あと、いつも実施する事が出来たかじゃなくて、目標に向かって前進したかどうかみたいな事で評価をすると、『ちょっと前進した』とか、『かなり前進した』とかって事で割とポジティブな評価をしても、おかしくはないかなと思わせて。ちょっと何か私『評価』に関わってしまう商売なので、若干甘いかなっていう気がしてるので。あと『評価』の文言というのを変えると、割とポジティブに評価してもおかしくないし、要は目標に向けてどれぐらい進んだかということが重要なので。

事務局 | まあ今は時代がSDGsですからね。事業をしたことにより、どの程度数値目標に近づいたかというのが求められますからね。

委員長 | ありがとうございます。よろしいでしょうか？では、今日はちょっとまだ時間がありましたけども一旦、大きな所での幾つかのご提言をさせて頂きましたので、次回は…

事務局 | もう一度ちょっと、庁内委員会なり研修会をさせて頂いて、それから各課に今回の結果もお返しをして、それから又決めたいと思いますので、今年度中には何とか間に合わせる形で皆さんにお示しして、遅くなるかもしれませんが、ちょっと必要なお時間を頂きたいと思います。

委員長 | 次回、最後に修正された資料をご覧いただいて、それに対して委員さんからそれぞれの事業に対して評価をさせて頂いてというのが1つと、3年度の計画っていうのも一つ。皆さん大変かと思いますが、よろしく願い致します。

事務局 | ありがとうございました。